

ご挨拶

立夏の候、先生におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

第23回日本産婦人科・新生児血液学会学術集会の抄録号をお届けさせていただきます。学術集会を奈良の地で開催させていただきますことは、奈良県立医科大学産婦人科教室及び同門会にとりまして大変名誉なことであり、奈良県立医科大学は全学を上げて、血栓止血学の臨床・研究を活発にしており、今回、学長・理事長 吉岡 章 先生、輸血部教授 藤村吉博 先生、小児科教授 嶋 緑倫 先生、総合周産期母子医療センター新生児集中治療部門教授 高橋幸博 先生のご協力をいただきプログラムを作成いたしました。

今回、一般応募演題は33題の申し込みがあり、全ての演題を評価委員により査読した結果、全演題を採用させていただきます。これらの一般演題は、学術集会第1日目（平成25年6月7日（金））の午前に口演（発表6分、質疑応答2分）で発表していただきます。ランチオンセミナーは「妊婦における大腸菌 O111感染と HUS から学んだこと」と題して富山大学産婦人科教授 齋藤 滋 先生にご講演いただきます。ご存知のように齋藤 滋 先生も奈良県立医科大学の出身で、先生自らが経験された妊婦における大腸菌 O111感染に関する内容で、とても臨場感あふれたご講演が期待されます。午後は2つのテーマでワークショップを企画しました。ワークショップ1は産婦人科側からのテーマで、最近話題になっている「絨毛附着部位異常妊娠への対応」を取り上げました。3名の若手演者 佐道俊幸 先生、野平知良 先生、牧野真太郎 先生からそれぞれ、「癒着胎盤に対する治療戦略」、「頸管妊娠の取り扱い」と「帝王切開後子宮搬痕部妊娠の取り扱い」のお話をしていただきます。現在はどんな治療方法が最も推奨されているのかをお教え頂き、また会員の皆様のディスカッションも楽しみたいと考えております。続いてワークショップ2は小児科側からのテーマで、「周産期血液疾患の Up to Date」を取り上げました。4名の演者 松本雅則 先生、田邊さおり 先生、國島伸治 先生、野上恵嗣 先生からそれぞれ、「先天性 ADAMTS13欠乏症：Upshaw-Schulman 症候群患者の周産期の管理」、「先天性 ADAMTS13欠乏症：Upshaw-Schulman 症候群の小児期における診断のポイント」、「先天性巨大血小板症の病因解明と鑑別診断の進歩」と「血友病の周産期管理」のお話をしていただきます。なお、平成24年10月21日にご逝去されました故寺尾俊彦先生の偲ぶ会も夕方のビタミン K フォーラムの中で開催させていただきます。

学術集会第2日目（平成25年6月8日（土））の午前には、学長 吉岡 章 先生による特別講演「小児科学と血栓止血学への道に導かれて」を企画しております。吉岡先生は学長・理事長の要職を務めながら、現在でも精力的に血友病に関する基礎研究を指導し、2012年には Nature Medicine に A bispecific antibody to factors IXa and X restores factor VIII hemostatic activity in a hemophilia A model. を発表しております。さらにそれに引き続くシンポジウムでは妊娠高血圧症候群の病態を進化論的な観点で解明したいと考え、「妊娠高血圧症候群の病態解明～母児間遺伝子衝突 Maternal-fetal conflict～」をテーマに取り上げました。大阪大学の伊川正人 教授には「胎盤の遺伝子操作と基礎研究への応用～妊娠高血圧モデルマウスの作製と治療の試み～」、東京女子医科大学 市原淳弘 教授には「妊婦の血圧、児の発育と（プロ）レニン受容体」を、奈良県立医科大学 成瀬勝彦 先生には「妊娠高血圧症候群におけるインスリン抵抗性と炎症～胎盤形成の母児間接点から病態へ～」をお話いただき、PIH の病態解明の一助になればと考え企画しました。昨年と同様に実施する「診療指針作成のためのパブリックオピニオンを聴く会」は1日目の午前と、2日目の午前に2部制で企画いたしましたので会員の先生方の活発なご意見をお願いします。

奈良といえば、「東大寺の大仏」と「奈良公園の鹿」はどなたでもイメージされると思いますが、今回の学術集会会場は、まさに東大寺大仏殿に隣接する東大寺総合文化センター（仁王像が立たれる南大門と大仏殿の間）で開催させていただきます。大仏の真横にありますので、観光地のど真ん中というイメージです。学会終了後の週末はぜひ奈良観光もお楽しみいただければ幸いです。

皆様多数ご参加下さいますようご案内申し上げます。

最後になりましたが、皆様のご健勝と本学会の益々の発展を祈念致します。

第23回日本産婦人科・新生児血液学会
学術集会会長 小林 浩

第23回日本産婦人科・新生児血液学会 ご案内

会期：平成25年6月7日（金）・8日（土）

会場：東大寺総合文化センター

〒630-8208 奈良市水門町100番地

TEL：0742-20-5511

会長：小林 浩

奈良県立医科大学産婦人科教授

H P：http://www.jsognh.jp/scientific/

事務局

奈良県立医科大学 産科婦人科学教室

〒634-8522 奈良県橿原市四条町840

TEL：0744-22-3051（内線3429）

FAX：0744-23-6557

E-mail：jsogn.h2013@naramed-u.ac.jp

会場へのアクセス

■学会：東大寺総合文化センター 1F 金鐘ホール / B1F 小ホール

〒630-8208

奈良県奈良市水門町100番地

TEL 0742-20-5511

URL：http://culturecenter.todaiji.or.jp/

徒歩：近鉄奈良駅より20分

バス：JR 奈良駅または近鉄奈良駅から市内循環バス「大仏殿春日大社前」下車徒歩5分

タクシー：JR 奈良駅より約1,200円、近鉄奈良駅より約800円

施設内に駐車場はありません。

奈良県営大仏前駐車場：奈良市水門町南院畑82 / TEL.0742-22-5025

春日大社前駐車場：奈良市春日野町160 / TEL.0742-22-7788

■懇親会：奈良国立博物館内カフェレストラン葉風泰夢 - 桃谷樓

〒630-8213

奈良県奈良市登大路町50番地 奈良国立博物館 B1F

TEL 0742-22-1673

URL：http://www.narahaku.go.jp

【電車利用の場合】

近鉄奈良駅まで

大阪から 近鉄難波駅から近鉄奈良駅行き特急で35分

京都から 近鉄京都駅から近鉄奈良駅行き特急で35分

JR 奈良駅まで

大阪から JR 大阪駅から JR 奈良駅行き大和路快速で50分

【飛行機利用の場合】

大阪（伊丹）空港からリムジンバス利用：関西空港交通株式会社

http://www.okkbus.co.jp/

近鉄奈良駅まで65分、JR 奈良駅まで75分

関西空港からリムジンバス利用：関西空港交通株式会社 http://www.kate.co.jp/

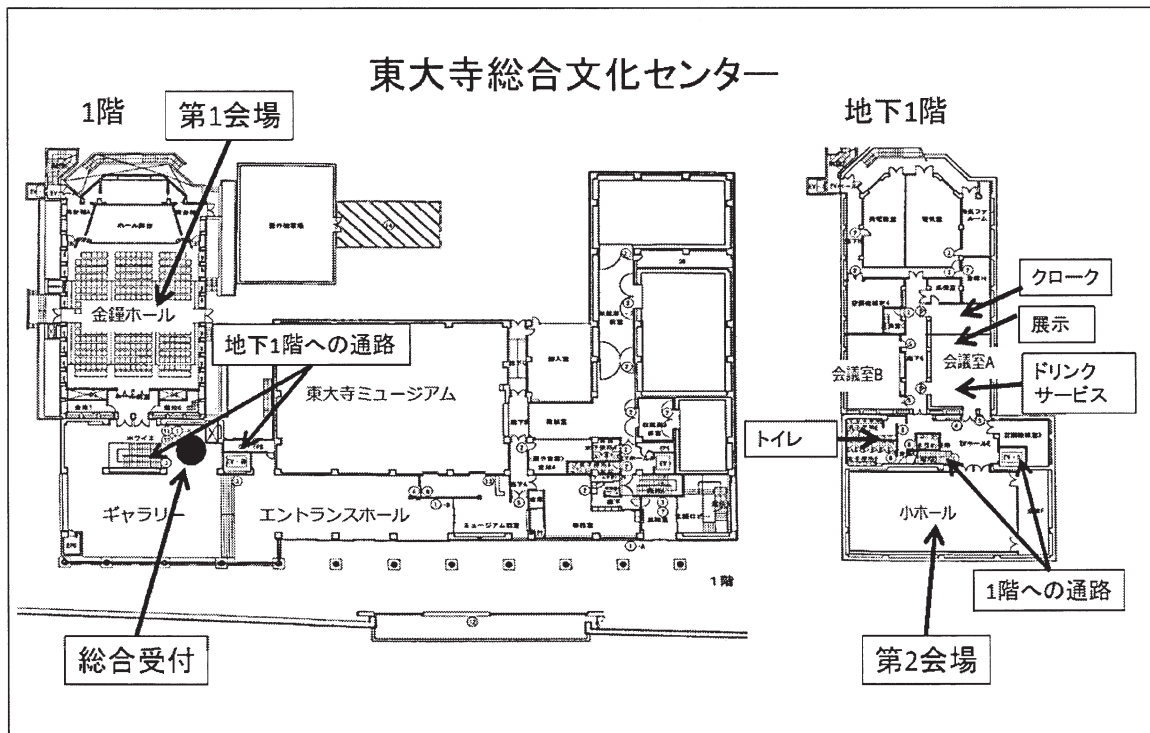
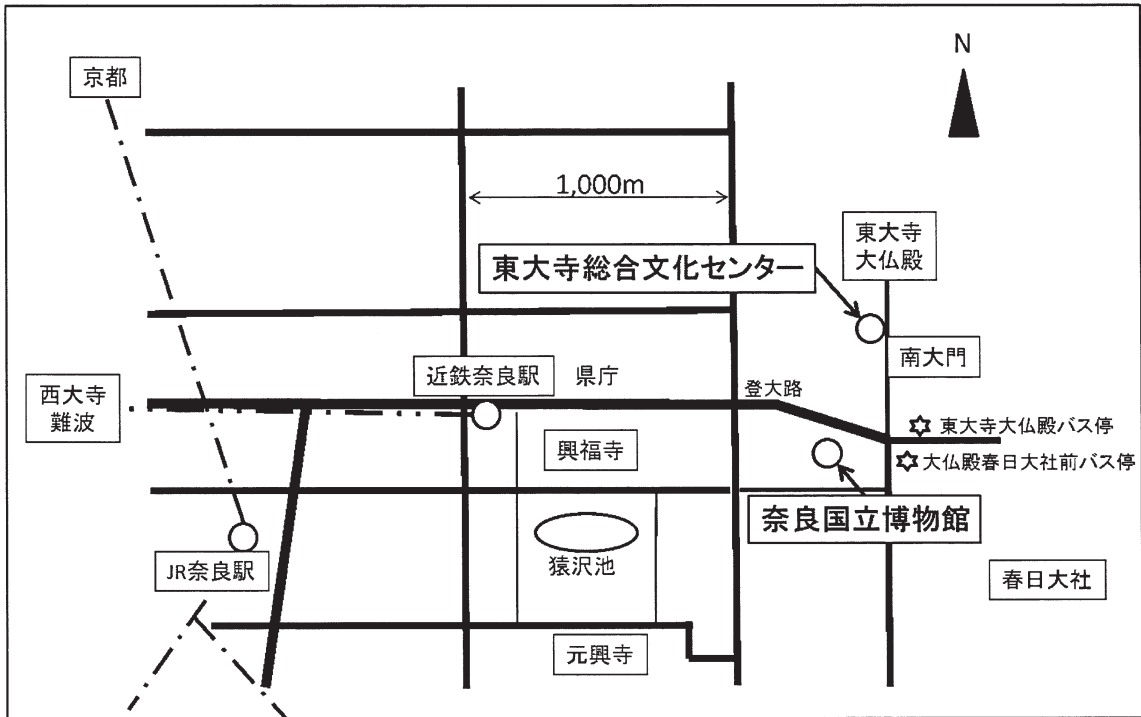
近鉄奈良駅まで85分、JR 奈良駅まで90分

会場ご案内

会場周辺地図

学術集会場：東大寺総合文化センター

懇親会場：奈良国立博物館 B1F レストラン葉風泰夢



参加者の皆様へ

【参加受付】

受付日時：6月7日（金） 8：20～17：00

6月8日（土） 8：30～12：00

受付場所：東大寺総合文化センター1階 第1会場金鐘ホール前

参加登録費： 10,000円

【参加証】

所属・氏名をご記入の上、会場では必ずご着用下さい。

【抄録集】

学会員の方は、本号「学会抄録集」を忘れずにご持参下さい（会員の方で未着の場合は、当日学会デスクにお申し出下さい）。非学会の方および学会員の方で抄録を複数冊必要な場合は、当日受付にて1冊2,500円で販売致します。

【学会単位】

本学会出席は、日本産科婦人科学会専門医（10単位）および日本小児科学会専門医資格更新のための基本単位（3単位）の対象になります。産婦人科の先生には専門医シール（10単位）が交付されますので、受付でお受け取り下さい。小児科の先生の3単位は名札に印刷されておりますので、ご利用下さい。（小児科基本単位：今まで5単位だったのですが、平成25年1月1日より、3単位になりました。）

【懇親会】（詳細は本学術集会ホームページ内の懇親会案内または当日配布の案内をご覧ください）

日時：6月7日（金） 19：00～21：00

会場：奈良国立博物館内カフェレストラン葉風泰夢－桃谷樓

会費：無料

【学会入会費】

年会費8,000円の納入、新規入会手続きについても当日学会デスクにて行います。

【会場内での呼び出し】

各会場内でのアナウンス及びサイドスクリーンによる呼び出しは行いません。

【ご注意】

- ①会場内での携帯電話はマナーモードに設定していただくか、電源をお切り下さい。
- ②講演・発表中の会場内での写真・ビデオ撮影は固くお断り致します。
- ③口演発表における質疑・討議は必ず座長の指示に従い、所属・氏名を告げてから、手短かに発言して下さい。

発表要項

【座長の皆様へ】

特別講演・シンポジウム・ワークショップ・一般演題など、ご担当のセッション開始15分前までに、会場内の次座長席へお越し下さい。

進行および時間管理は座長に一任致します。スケジュールが非常にタイトであるため、時間厳守の上、円滑な進行にご協力をお願い致します。

【演者の皆様へ】

特別講演・シンポジウム・ワークショップ・一般演題など、それぞれ講演時間と討論時間が異なります。

各セッションをご参照下さい。今回の学術集会では、ポスターセッションはございません。口演発表のみです。

※一般演題発表時のスライドの枚数に制限はございませんが、スケジュールが非常にタイトであるため、時間厳守をお願いいたします。1演題につき発表6分間、質疑応答2分間です。

【特別講演 / シンポジウム / ワークショップ・演者の皆様へ】

発表30分前までに PC 発表用の媒体を PC 受付へご持参下さい。

【一般演題・演者の皆様へ】

今回の学術集会では、一般演題の発表スライドをあらかじめ提出していただきます。例年とは異なりますので、ご注意下さい。

発表スライドは、CD-R または USB メモリを郵送して頂くか、電子メール（ファイルサイズは20MB まで）による送付をお願いいたします。

提出先：郵送の場合

〒634-852 奈良県橿原市四条町840

奈良県立医科大学産科婦人科学教室

TEL：0744-22-3051（内線3429）

電子メールの場合

jsogn.h2013@naramed-u.ac.jp

提出期限：平成25年6月3日（月）必着

※郵送の場合：提出して頂いた CD-R または USB メモリは、学術集会終了後に破棄させていただきます。CD-R または USB メモリ返却希望者は、返却希望と記載した用紙を同封して郵送して下さい。CD-R または USB メモリ返却は、学術集会開催中に PC 受付にて実施しておりますので、御足労ですが、PC 受付までお越しく下さい。また、必ず6月3日までに着くように郵送して下さい。一般発表演題は、発表中に審査員（本学会理事）により採点され、懇親会時に高得点であった3名程度の演者を優秀演題賞（真木賞）候補の優秀演題として表彰します。（該当演題の発表は懇親会時に実施します。）

【注意事項】

- 1) また、学術集会当日は、発表の60分前までに、総合受付エリアの「演者受付」にて受付をお済ませ下さい（8：50からのセッションは8：40までをお願い致します）。
- 2) スライドの注意事項
 - ①当日、ご用意するパソコンの OS は Windows 7、プレゼンテーションソフトは Power Point 2010です。

- ②提出するスライドは Windows Power Point 2007以上のものをご使用下さい。
- ③フォントは OS 標準のもののみご使用下さい。
- ④ファイル名は「セッション名 演者名.ppt」として下さい。
- ⑤画面の解像度は、XGA（1204×768）60Hz をお願い致します。
- ⑥ CD-R（RW 不可）への書き込みは、ISO9660方式をお使い下さい。
※パケット方式は会場 PC で読み込めない恐れがあります。

- 3) 次演者の方は、次演者席での待機をお願い致します。
(会場スクリーン向かって左の最前列席)
- 4) 講演時は、ご自身で、講演台上の PC を操作して頂きます。
- 5) 発表終了 1 分前に最初のベルが、既定発表終了時間に 2 回目のベルが鳴ります。
- 6) 動画および Macintosh による発表は受け付けませんので、ご了承下さい。

【お問い合わせ先】

〒634-8522 奈良県橿原市四条町840
奈良県立医科大学産科婦人科学教室 第23回日本産婦人科・新生児血液学会事務局
会長 小林 浩
事務担当 大井豪一
TEL：0744-22-3051（内線3429）
FAX：0744-23-6557
E-mail：jsogn.h2013@naramed-u.ac.jp

第23回日本産婦人科・新生児血液学会 タイムスケジュール

第1日目 平成25年6月7日(金)		第2日目 平成25年6月8日(土)	
東大寺総合文化センター		東大寺総合文化センター	
第1会場(金鐘ホール)		第2会場(小ホール)	
8:20 受付開始		8:30 受付開始	
8:40 開会の挨拶		8:30 受付開始	
8:50	第1会場(金鐘ホール)：演題番号1-16 第2会場(小ホール)：演題番号17-33 一般演題 140分 (1演題 口演6分 質疑応答2分)	9:00	特別講演 45分 小児科学と血栓止血学への道に導かれて 座長 池ノ上 克 演者 吉岡 章
11:10	診療指針作成のためのパブリックオピニオンを聴く会 part1 60分 座長 板倉 敦夫 演者 ①小林 隆夫 ②竹田 省 ③水上 尚典 ④金山 尚裕	9:50	シンポジウム 100分 妊娠高血圧症候群(PIH)の病態解明～母児間遺伝子衝突 Maternal-fetal conflict～ 座長 小林 浩 演者 ①伊川 正人 ②市原 淳弘 ③成瀬 勝彦
12:20		11:35	診療指針作成のためのパブリックオピニオンを聴く会 part2 45分 座長 細野 茂春 演者 ①藤村 吉博 ②吉松 淳 ③大賀 正一
12:20		12:20	閉会の挨拶
12:20	ランチョンセミナー 45分 「妊婦における大腸菌O111感染とHUSから学んだこと」 共催 旭化成ファーマ(株) 座長 藤村 吉博 演者 齋藤 滋		
13:10 評議員会30分 総会10分			
13:55	ワークショップ1 90分 絨毛付着部位異常妊娠への対応 共催 トーイツ(株) 座長 竹田 省 演者 ①佐道 俊幸 ②野平 友良 ③牧野真太郎		
15:30	ワークショップ2 100分 周産期血液疾患のUp to Date 共催 バクスター(株) 座長 高橋 幸博 瀧 正志 演者 ①松本 雅則 ②田邊さおり ③國島 伸治 ④野上 恵嗣		
17:20	ビタミンK フォーラム 80分 寺尾俊彦先生を偲んで 共催 エーザイ(株) 座長 白幡 聡 西口 富三 演者 ①西口 富三 ②金子 淳子		
19:00	懇親会 120分 奈良国立博物館内 B1F カフェレストラン葉風泰夢 - 桃谷楼 -		

(表中敬称略)

■特別講演

特別講演 [平成25年6月8日(土) 9:00~9:45]

「小児科学と血栓止血学への道に導かれて」 S1-2

座長：宮崎大学医学部附属病院 病院長 池ノ上 克 先生

演者：奈良県立医科大学 学長 吉岡 章 先生

■シンポジウム

シンポジウム [平成25年6月8日(土) 9:50~11:30]

「妊娠高血圧症候群(PIH)の病態解明~母児間遺伝子衝突 Maternal-fetal conflict ~」

座長：奈良県立医科大学産婦人科 教授 小林 浩 先生

「胎盤の遺伝子操作と基礎研究への応用 S3-4

~妊娠高血圧モデルマウスの作製と治療の試み~」

演者：大阪大学・微生物病研究所・附属感染動物実験施設 教授 伊川 正人 先生

「妊婦の血圧、児の発育と(プロ)レニン受容体」 S5-6

演者：東京女子医科大学高血圧・内分泌内科 教授 市原 淳弘 先生

「妊娠高血圧症候群におけるインスリン抵抗性と炎症 S7-8

~胎盤形成の母児間接点から病態へ~」

演者：奈良県立医科大学 産婦人科学教室 助教 成瀬 勝彦 先生

■ワークショップ

ワークショップ1 [平成25年6月7日(金) 13:55~15:25]

「絨毛付着部位異常妊娠への対応」

座長：順天堂大学産婦人科 教授 竹田 省 先生

共催：トーイツ(株)

「癒着胎盤に対する治療戦略」 S9-10

演者：奈良県立医科大学産婦人科、大阪暁明館病院産婦人科 部長 佐道 俊幸 先生

「頸管妊娠の取り扱い」

S11-12

演者：東京医科大学産科婦人科学教室 講師 野平 知良 先生

「帝王切開後子宮搬痕部妊娠の取り扱い」

S13-14

演者：順天堂大学産婦人科 准教授 牧野真太郎 先生

ワークショップ2 [平成25年6月7日(金) 15:30~17:10]

「周産期血液疾患のUp to Date」

座長：奈良県立医科大学新生児科 教授 高橋 幸博 先生

聖マリアンナ医科大学小児科 教授 瀧 正志 先生

共催：バクスター(株)

「先天性ADAMTS13欠乏症：Upshaw-Schulman症候群患者の周産期の管理」

S15-16

演者：奈良県立医科大学輸血部 准教授 松本 雅則 先生

「先天性ADAMTS13欠乏症：Upshaw-Schulman症候群の小児期における診断のポイント」

S17-18

演者：日本海総合病院小児科 部長 田邊さおり 先生

「先天性巨大血小板症の病因解明と鑑別診断の進歩」

S19-20

演者：国立病院機構名古屋医療センター臨床研究センター高度診断研究部 室長 國島 伸治 先生

「血友病の周産期管理」

S21

演者：奈良県立医科大学小児科 准教授 野上 恵嗣 先生

————産婦人科・新生児領域血液疾患診療の手引き作成に向けて————

パブリックオピニオンを聴く会1

[平成25年6月7日(金) 11:10~12:10]

座長：埼玉医科大学産婦人科 教授 板倉 敦夫 先生

「産科 DIC」

浜松医療センター 病院長 小林 隆夫 先生

「分娩時大量出血」

順天堂大学産婦人科 教授 竹田 省 先生

「HELLP 症候群と AFLP」

北海道大学産婦人科 教授 水上 尚典 先生

「羊水塞栓症」

浜松医科大学産婦人科 教授 金山 尚裕 先生

パブリックオピニオンを聴く会 2

[平成25年 6 月 8 日 (土) 11:35~12:20]

座長：日本大学医学部小児科 准教授 細野 茂春 先生

「HUS ならびに TTP」

奈良県立医科大学輸血部 教授 藤村 吉博 先生

「脳出血」

国立循環器病センター周産期・婦人科 部長 吉松 淳 先生

「新生児血栓症」

九州大学周産期・小児医療学 教授 大賀 正一 先生

■ランチョンセミナー [平成25年 6 月 7 日 (金) 12:20~13:05]

「妊婦における大腸菌 O111 感染と HUS から学んだこと」

座長：奈良県立医科大学輸血部 教授 藤村 吉博 先生

演者：富山大学産婦人科 教授 齋藤 滋 先生

共催：旭化成ファーマ (株)

■ビタミンKフォーラム [平成25年6月7日(金) 17:20~18:40]

座長：産業医科大学 名誉教授 白幡 聡 先生

静岡県立こども病院周産期センター センター長 西口 富三 先生

共催：エーザイ(株)

1. 「寺尾俊彦先生を偲んで」

2. 「ビタミンK 欠乏性出血症への取り組み：寺尾先生の足跡を辿って」

演者：静岡県立こども病院周産期センター センター長 西口 富三 先生

3. 「山口県での週1回ビタミンK投与の全県的取り組み」

演者：山口県小児科医会金子小児科 院長 金子 淳子 先生

企業一覧

共催企業

旭化成ファーマ株式会社

エーザイ株式会社

トーイツ株式会社

バクスター株式会社

協賛企業

CSL ベーリング株式会社

機器展示企業

ジョンソンエンドジョンソン株式会社

日立アロカメディカル株式会社

持田シーメンスメディカル株式会社

ノボノルディスクファーマ株式会社

寄附企業

アステラス製薬株式会社

株式会社ツムラ

アトムメディカル株式会社

一般社団法人日本血液製剤機構

小野薬品工業株式会社

日本新薬株式会社

科研製薬株式会社

持田製薬株式会社

第一三共株式会社

田辺三菱製薬株式会社

■一般演題 (口演) 8:50から11:10 第1会場(金鐘ホール):演題番号1-16 (敬称略)
 第2会場(小ホール):演題番号17-33 (施設名簡略化)

座長	演題番号	査読	演者	所属	ページ
		演題名			
第1群 胎盤関連疾患 8:50~9:30					
前田 真 三重中央 医療センター 産婦人科	1	○	深津 真弓	埼玉医科大学総合医療センター 総合周産期母子医療センター 母体・胎児部門	2-3
	常位胎盤早期剥離の重症例における血栓性素因の有無に関する検討				
	2		小田 智昭	富士市立中央病院 産婦人科	S23-24
	当院症例における常位胎盤早期剥離発症時の凝固線溶検査値と血小板数の比較				
	3	○	田中 博明	宮崎県立延岡病院産婦人科・周産期科	4-5
出血量予測因子についての検討 ~子宮内胎児死亡を伴った常位胎盤早期剥離症例~					
3	4	○	森川 守	北海道大学病院 産科・周産母子センター	6-7
	当科における癒着胎盤に対する回収式自己血輸血の経験				
	5		芹沢麻里子	浜松医療センター、周産期センター	S25-26
分娩時出血量の後方視的検討 - 麦角アルカロイド全例投与群、必要時投与群、院内助産群での比較 -					
第2群 大量出血・DIC 9:30~10:18					
渡辺 尚 自治医科大学 産婦人科	6	○	佐藤 史朗	成田赤十字病院 産婦人科	8-9
	止血困難な産褥大量出血に対して遺伝子組換え活性型血液凝固第Ⅷ因子製剤が著効した 2 症例				
	7	○	西嶋 優子	総合母子保健センター 愛育病院 産婦人科	10-11
	当院における経膈分娩時の大量出血症例の検討-輸血と血栓症予防の現状-				
	8	○	森川 守	北海道大学病院 産科・周産母子センター	12-13
	当科における貯血式自己血輸血に関する検討				
9	9	○	栗原 康	大阪市立大学 産婦人科	14-15
	子宮内胎児死亡に対する流産処置後、急激に DIC に至った 1 例				
	10		中林 正雄	総合母子保健センター愛育病院 産婦人科	S27-28
産科 DIC 患者に対するヒトロンボモジュリン製剤の有用性に関する多施設共同研究					
11	11	○	朝永 千春	産業医科大学病院総合周産期母子医療センター	16-17
	リコンビナントロンボモジュリン製剤を使用した DIC 2 症例について				
第3群 血栓症・婦人科疾患 10:18~10:58					
永井 公洋 宮崎大学 医学部附属病院 がん診療部	12		高橋 詳史	芳賀赤十字病院 産婦人科	S29-30
	血清が茶褐色を呈した内膜症性嚢胞破裂の 1 例				
	13		林 裕子	名古屋市立大学 産科婦人科	S31-32
		不育症患者におけるアネキシン A 5 遺伝子多型についての検討			
	14		吉岡 範人	聖マリアンナ医科大学産婦人科	S33-34
	婦人科領域の VTE 治療においてフォンダパリヌクスは有効である				
15	15	○	秋山 瑞紀	聖路加国際病院 女性総合診療部	18-19
	異なる臨床経過をたどったアンチトロンビン欠乏症合併妊娠の 2 例				
16	16	○	中村 春樹	奈良県立医科大学産科婦人科学教室	20-21
	胎盤転移をきたした悪性リンパ腫合併妊娠				

査読ありの論文は演者前に○を記載

座長	演題番号	査読	演者	所属	ページ
		演題名			
第4群		血液検査データ		8:50~9:38	
金井 誠 信州大学 保健学科	17		荒木 直人	北海道大学産科	S35-36
		妊娠中の D-dimer: 単胎 vs 多胎			
	18	○	兵藤 博信	聖路加国際病院 女性総合診療部	22-23
		妊娠中に発症した血栓症の2症例			
	19		瀬戸さち恵	埼玉医科大学 産科婦人科	S37-38
		産科 DIC スコアと血液凝固系検査値との関係			
	20	○	飯嶋 重雄	浜松医科大学 地域周産期医療学講座	24-25
簡易型プロトロンビン時間測定装置を用いた正常新生児の血液凝固機能スクリーニング検査					
21	○	市山 正子	九州大学大学院医学研究院成長発達医学	26-27	
	小児遺伝性血栓症スクリーニングのための protein C, protein S 及び antithrombin 活性値				
22		大戸 齊	福島県立医科大学 輸血・移植免疫部	S39-40	
	日本人妊婦で良く検出される赤血球高頻度抗原 KANNO に対する新しい不規則抗体				
第5群		血小板関連疾患		9:38~10:18	
白川 嘉継 福岡 新水巻病院 小児科	23	○	小林 良行	広島大学病院小児科	28-29
		出産を契機に同定できた優性遺伝型先天性血小板減少症、インテグリン α IIb β 3 (GPIIb/IIIa) 変異の2家系			
	24	○	峰 研治	関西医科大学小児科学教室	30-31
		抗 HLA 抗体による新生児同種免疫性血小板減少症の双胎児の2例			
	25	○	中村 利彦	東海大学 総合周産期母子医療センター 新生児部門	32-33
		第1子を抗 HPA-4b による新生児血小板減少症と診断し、第2子分娩に際し母体抗体価の推移を観察し、予定帝王切開で出生した同種免疫性新生児血小板減少性紫斑病の1例			
26	○	杉浦 友美	東京女子医科大学 母子総合医療センター	34-35	
	胎児頭蓋内出血を認めた ITP 合併妊娠の1例				
27		山田 諭	信州大学医学部産婦人科	S41-42	
	当科で経験した本態性血小板血症合併妊娠の2例				
第6群		新生児関連疾患		10:18~11:06	
西久保敏也 奈良県立 医科大学 小児科	28		北野 裕之	石川県立中央病院いしかわ総合母子医療センター・新生児科	S43-44
		抗 M 抗体価の推移を観察し得た遅発性貧血合併 MN 式血液型不適合の同胞例			
	29		沢田 健	東邦大学医療センター佐倉病院小児科	S45-46
		IgG2型抗 B 抗体よると考えられた新生児溶血性疾患における交差反応性抗 A, B 抗体の影響			
	30		片岡 美香	奈良県立医科大学附属病院、中央臨床検査部	S47-48
		新生児の交換輸血時の血液製剤の検討			
	31	○	前田 創	竹田総合病院 小児科	36-37
		重症仮死を伴った胎児母体間輸血症候群の早産児			
32	○	慶野 大	聖マリアンナ医科大学病院 小児科	38-39	
	外科的切除を行った肝臓の巨大 Congenital hemangioma の1例				
33		吉川 香代	日本大学医学部小児科学系小児科学分野	S49-50	
	過去3年間の当院での前置胎盤症例の児の呼吸障害との関連性の検討				